

Q 出産前と出産後との働き方、生活スタイルの違いなど聞かせてください。

結婚後は、山口市から福山市へ新幹線通勤をしました。院長は子育てで大変理解がある方で、一年間の育休を終えて必ず戻って来てほしいと復帰後のポストも用意してくださいました。その後、職場に復帰し、夫の協力のもと、一歳から三歳まで子どもを無認可託児所に預けながら勤務を続けました。

しかし長距離通勤の疲労からか、年に四回も肺炎になるなど体調を崩してしまい、心配した院長が現在の山口市の病院を紹介してくれ、そちらへ移るようになりました。

Q 子育てと仕事を両立するため、ご自身で工夫されていることを教えてください。

子育てと仕事を両立させるには、安請け合いない、やると決めたことはやる、そして楽しくやるのがコツだと思います。しかし、できないことははっきり言うことが大切とは思いますが、最初はなかなか

言えませんでした。

Q 自身の子育て中に、身の回りの支えを感じられたことがありますか？

出産からずっと福山に勤務していましたが、山口市の行政によるサポートについてはよく知りませんでした。夫も私も、自分の子どもは自分で育てることを基本としていたので、まず自分達で努力するという形を選択しました。おかげさまで近所の方や知り合いが手を差し伸べてくれて、子どもは自然に地域社会の中で育つていったと思います。地域の方の存在サポートはとても大きかったと思います。

Q 子育てが一段落したら、やってみたいことはありますか？

病院でのハードな勤務に対して、これまでと同じような働きができない申し訳なさと、子育てや家族サービスが中途半端で申し訳ない気持ちの板ばさみで心が折れてしまうこともありましたが、女性だから理解できることを自分自身が体験しているところもあり、患者さんから発信される様々な心身の状態にアンテナが反応できるようになりました。だからこそ、今ようやく「産婦人科医師になれてよかった」と感じています。

これからは、思春期の方から更年期の方まで女性全体の話し相手となり、病院の中だけでなく外に向けても話ができるようになりたいと思います。

(取材：原田茂・堀江)



Asian farm house
百姓庵

井上 かもさん

自給自足と明るい笑顔
自然に抱かれ生きる“しあわせ”

Q 県外の大企業を退職し、山口県で新たに生業をはじめたことになつたきっかけ、理由など経緯について教えてください。

北九州市小倉で育ち、大手の旅行会社に就職、楽しく働いていました。成績もトップで、本当に充実していたのです。ところがある日、動悸が止まらなくなりました。知らないうちに仕事のストレスから心身のバランスを崩してしまっていたのです。

専門の医療機関に行くと「環境を変えない」と言われ、以前、専門学校で習得した陶芸を、さらにスキルアップするため、南

フランスに留学するつもりで準備をしていたのです。そんな時に友人の話の中で、タコを素手で獲る人がいるという噂が出ました。「じゃあ、みんなで会いに行こう」という軽いノリで出かけたのが、長門市(当時は大津郡油谷町)でした。そこで今の夫に出会ったのです。

それはまさにカルチャーショックでした。働いて、お金を払ってなんでも手に入れる暮らしから、まさに自給自足の暮らしです。

Q 出産前と出産後との働き方、生活スタイルの違いなど聞かせてください。

出会ってから半年で結婚しました。夫は古民家を自分で改築して、耕作放棄地となった農地を開墾して有機農業を目指していましたので、とにかく最初の一年は農地を開墾するため重労働の日々。過酷な作業には泣きながら作業をしていました。ところが、一日の作業が終わる夕刻には言葉にできない達成感があるのです。やがて二人の子どもを出産。その頃、農家民宿を経営していましたので、仕事をしないわけにはいきません。子どもをあやしながら台所に立っていました。

子どもの時から料理はしたこともなく、ましてお菓子づくりなど考えたこともありませんでしたが、「自分でつくってごらん」という夫に影響を受け、自分でやるようになりました。それで、料理の講師をしたり、自分でつくったお菓子をみなさんに食べていただけるようになりました。

Q 子育てと仕事を両立するため、ご自身で工夫されていることを教えてください。

元々は田舎暮らしに興味はなかったのですが、家庭菜園が大好きだった亡くなった父の影響か自給自足の生活は苦ではありませんでした。しかし、これまでのOL生活のように決まった休みなどありません。仕事のなかに子育てを取り入れているのか、子育てのなかで仕事をこなしているのか、どちらにも手を抜かずにいると、時にまたオーバーワーク気味になって自分のバランスが危うくなってしまう時があります。そんな時、夫の父が「大変な時にこそ何が大切か考えてごらん」と、声をかけてくれました。子ども達の顔が浮び、心がすつとしました。それからは、自分の許容範囲が越えそうになるとその言葉を思い出す

ようにしています。



Q ご自身の子育て中に、身の回りの支えを感じられたことがありますか？

私が住んでいる向津具半島は、子どもを大切に思っていて育ててくれるたくさんのご近所さんがいらつしゃいます。昔から子どもは「宝」として、大人は自然と子どもにも目を配り、声をかけてくださる。

結婚してここにやってきたので近くに頼る親はいませんが、ここで子育てをしながら、私自身もまわりの方に見守られているような気がします。子どもと一緒に地域に

育てられていることを実感し、とても感謝しています。

Q 子育てが「段落」したら、やってみたいことはありますか？

今も子育てをしながら、やりたいと思っただことは行動に移すようにしていますが、もつと自分の時間がもてるようになったら、やはり陶芸留学したいと考えています。

でも、今一番興味があるのはお坊さんですね。「百姓庵」の庵の字は「門徒のいないお寺」という意味もあるそうなのですが、年に何人か「ここに来ると背中を押してくれると聞いた」と来られる方がいて、「ここはお寺じゃないですよ」と、言いながらもお話を聞いていると、私と同じように環境を変えたい人が来てらっしゃるようです。そんな人たちが安心して来られる場所をつくりたいです。

(取材：原田茂)

子育ての支援には様々なものがありますが、今回お聞きしたのも、地域やご家庭の支えは非常に重要なものだと思っつけられています。女性として、母として、仕事をしながら懸命に毎日過ごす姿はとても魅力的でした。